

折に触れ 四字熟語

NO. 135 〔堅忍不拔〕 けんになん ふばつ

< 意味 > どんなことがあっても心を動かさず、じっと我慢をして堪え忍ぶこと。

出典：蘇軾そしよく『鼂錯論ちようそろん』

表現：堅忍不拔の精神

用例：私は堅忍不拔の愛などというものをからっきし持ち合わせていない。<檀一雄・火宅の人>

語釈：「堅忍」は意志がきわめて強くじっと堪え忍ぶこと。我慢強いこと。「不拔」は固くて抜けない意。意志が強く、何があっても心を動かさないこと。

一言：高校ラグビーをテレビで観戦していて、応援席最前列で風に揺れる横断幕に目が行きました。意識して観察してみると、四字熟語もいくつか見られました。「堅忍不拔」はそのうちの一つです。ワールドカップ・ラグビーで、私たちが沸かせた華麗な快走、トライのシーンからは「堅忍不拔」という言葉はなかなか思い浮かびませんが、トライの前のスクラムやタックルのせめぎ合いを思うと、なるほどと感じ入りました。

参考文献：岩波書店「四字熟語辞典」